



なかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会

(交野市ボランティアセンター内)

V連絡会 E-mail vltr94@leto.eonet.ne.jp

Vセンター E-mail katabora@nike.eonet.ne.jp

ボランティアを

紹介してほしい人

ボランティア活動を

はじめたい人

ボランティアセンター

にお問い合わせください

(☎894-3737)

第20回

9月3日(土)13時 ゆうゆうセンター4F

始めよう、子どもの時からボランティア!

体験型市民交流フェスタで~す



昨年の第19回市民交流フェスタの会場風景

市民交流フェスタ ボランティアin交野

「第一部」

和太鼓演奏ででんこ「交野」

コーラス / マジック

「第二部」

・ボランティア体験コーナー

紙漉き(ミルキークワイ)

手話、要約筆記、点字・点訳

アイマスク・朗読、国際交流

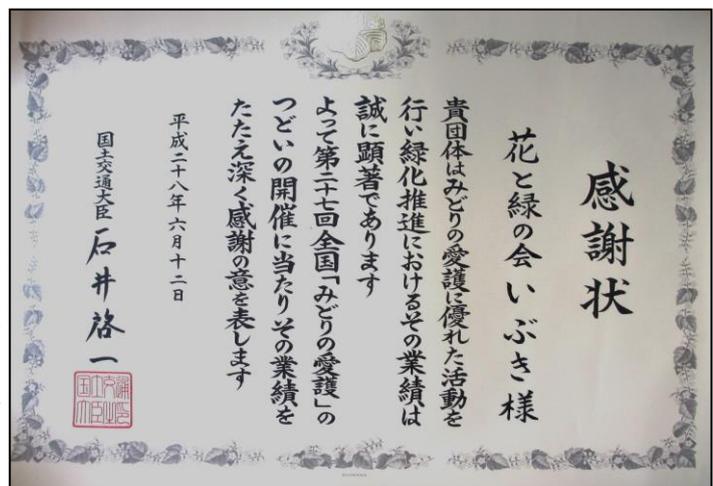
・楽しむコーナー

ディスコゲーム、歌体操など

第27回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰

花と緑の会「いぶき」が受賞

「みどりの日」制定の趣旨を踏まえ、緑を守り育てる運動をさらに積極的に推進していくため、花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体に対し、その功績をたたえ、緑化推進の模範として、近畿地区18団体のなかで花と緑の会「いぶき」が受賞しました。今回の受賞に際し、交野市土木建設課の推薦をいただき応募しました。



ボランティアグループ 近況あれこれ

枚方市の手話サークルと交流 ゆうゆうセンターで開催



8テーブルに分かれての対抗ゲーム！！
大いに盛り上がりました

手話「さつき」

年に一度、枚方市内の手話サークルとの交流会を毎年持ち回りで開催しています。7月8日(金)は、手話サークル「ひまわり」さんを招き、ゆうゆうセンターで総勢 59 人(内、ろう者8人)が交流しました。

「さつき」による手話ビンゴゲーム、「ひまわり」さんによる手話でのオリンピック問題など、テーブル対抗で大いに盛り上がりました。お別れ時に、来年は枚方でお待ちしていますと「ひまわり」さん。

視覚障がい者との交流

テキストコンゲームに挑戦

梅雨晴れの7月14日(木)、ゆうゆうセンターで、交野市視覚障がい者福祉会の方々とテキストコン交流会を実施しました。視覚障がい者の人ほどのようにゲームを進行できるのか不安がありましたが、投げたポイントやディスクの方向と距離を、カスタネットと鈴の音色で判断しながらゲームを進行しました。回を重ねるごとに歓声があがり、大変盛り上がりました。

そして「このような楽しいゲームが、交野発で大阪府下に拡がっていけばうれい」との言葉をいただきました。

玉手箱



8月のボランティアサロン

と き 平成 28 年 8 月 25 日 (木)
午後 1 時 ~ 3 時
ところ ボランティアセンター 2 階
問合せ ・ 申し込み
ボランティアセンター

誰でも気軽に参加でき、ボランティアに関しても、知る、学ぶ、交流するサロンを毎月開いています。
8月は障がいのある方や、社会参加しにくい方々と交流する活動を中心に紹介します。
当日は活動中の見学・体験もあります。ぜひお気軽にご参加ください。

ボランティア インタビュー-45



栗原清美子さん
(ほほえみ・糸ぐるま・かざぐるま・顧問)

今回のボランティアインタビューは特別企画として栗原清美子(顧問)さんにご登場いただき、ボランティア協会設立から連絡会への移行時のお話をお伺いしました。

ボランティアを
始められたのは

1977年(昭和52年)春からですのでもう39年になります。

交野市の広報に「障がい児とマンツーマンで給食を食べさせてくださる方」という募集が教育委員会からあり、昼は子どもが不在なので「できる」と思っ

しかし、障がい児の入院や他の事情も重なり対象者が減り、教職員だけで大丈夫ということになって、一度もお手伝いをするこ

となく、集まった30数人が解散となりかけましたが、教育委員会の先生から「これだけの人数が集まっても下さったのに解散するのは勿体ない、ボランティアを立ち上げませんか」と提案がありました。

ボランティア協会誕生

そこで福永松栄さんを会長に、交野市ボランティア協会が産声をあげました。当時のメンバーで今も活動を続けているのは福永さんと私の二人だけとなりました。「ほほえみ」の前身である「成年学級」が発足したのもその時です。最初は市役所別館の1階和室で活動を始めました。障がい児親子キャンプの手伝い、老人福祉施設での清掃活動、独居老人給食サービスの手伝い、ボラン

ティアスクールの開講など、いろんな活動に取り組みなかでコーダイネットまでボランティア協会でするのに限界を感じ始めていました。

ボランティアセンター
誕生、連絡会へ移行

1992年(平成4年)5月にゆうゆうセンターができた時、交野市ボランティアセンターが設置され、ボランティア協会は社会福祉協議会のお世話になることにしました。6月にはゆうゆうセンターに移転し、4階会議室と技能習得室をお借りしましたが、増えてくる資料や荷物で手狭になり困り果てておりました。

そんな事情を察した社会福祉協議会の尽力で2年後に現在地にボランティアセンターが建設されました。この機会にボランティア協会からボランティアグループ連絡会に名

称を変更し、15のボランティアグループで再出発しました。

ボランティアセンターができたことは活動の拠点が整備されたことで、資料や荷物の収納だけでなく、各グループの活動が充実し、活動の裾野も広がることにつながり、メンバーも増えました。

後輩に伝えたいこと

ボランティアの原則「自主性」「無償性」「公共性」に沿った活動のなかで「こういうものがあれば助かるだろう」という「創造性」も必要だと思います。

またボランティアが動くことで行政も動きまわります。例えば「運転ボランティア」が社協の「移送サービス」につながりました。みんなが自分のできることで気軽に参加してくれば社会が潤うのではないのでしょうか。

中学生が車いす・アイマスク体験

7月6日、交野第1中学校で2年生4クラスの生徒たちのアイマスクと車いす体験に、社会福祉協議会、老人福祉施設の明星、青山、サール・ナート、ボランテニア連絡会・朗読「あい」と外出介助「かざぐるま」のメンバーがお手伝いをしました。

始めに明星の介護福祉士から車いすの扱い方の説明があり、続いて「あい」のメンバーが視覚障がい者の手引きの仕方の説明をして、短時間で2種類の体験です。体育館の中では実際の街を歩くのとは随分緊張感が違い、初めて車いすに触れる生徒が多いからか、車いすの乗り降りなどで、ひやつとする場面もありましたが、車いすが見た目以上に扱いが大変なこと、見えないうちの不自由さ怖さなどを少しでも感じていただけたでしょうか。



体育館でアイマスク体験や車いすの取り扱いを学ぶ中学生たち

車いすなどは、どこでいっつ必要になるかもわかりません。病気や事故で障がい者になるかもしれない。若く元気な中学生にとっては、今は想像しにくいかも知れませんが、身近な、こととして、考えるきっかけになればと思います。車いすに触った事があるかないかで必要になったとき、扱い方が随分違います。もつと多くの中学生が体験される機会を持っていただきたいものです。

リーダー会議
(7月26日)

- ☆連絡会より
- ・献血の協力要請
- ・リーダー親睦会報告 (含む、会計報告)
- ・第20回市民交流フェスタの準備状況について、(1面に関連記事)
- ☆各グループ報告
- ・「いぶき」全国みどりの愛護功労者として国土交通大臣表彰を受賞(1面参照)
- ・「玉手箱」視覚障がい者とデイスコンゲーム(2面)
- ・「星の会」会の20周年で奈良県の障がい者施設見学
- ・「さつき」ろう者の防災について研修
- ・「HAND」星田で子ども対象に歌体操を初指導
- ・「ほほえみ」ペットロボットのキャップ回収にご協力ください
- ・「あい」新人募集の講習会を11月から3月まで
- ☆センターより
- ・キッズボランテニア大作戦及びボランテニア体験プログラムの案内

後	編
記	集



梅雨明け宣言を待ち望んでいたかのよう、朝早くから蝉の鳴き声に、今日も暑くなりそうな予感がする。暑気の払う呼び物はやはり祭りである。

関西では祇園祭、天神祭と夏祭りの真只中だ。でも地方の小さな夏祭りにもそれぞれの良さがある。

とりわけ子ども頃の思い出は意外と残っているものだ。父親と兄弟揃いの浴衣に袖を通し、参道や境内の出店を覗いていた記憶が甦ってくる。

時代が移り、いまは父親を過ぎ祖父の立場になってしまったが、祭りの思い出の中にいる父親の何気ない仕草や言葉が深い愛情に包まれていたことに気付かされ、感謝の念を持つても手遅れのような。

(ワイワイ)